



南 雲 正

一  
般  
質  
問

## 町政運営の方向性と 駅中開発の展開に対する 見解を問う

### 町政運営の方向性と選挙公約の具体的内容について

#### 質問

町政の全分野に及ぶ8項目28事業の実施を掲げ二期目の町長に就任したが、抽象的な提案が多く、内容が見えてこない。二期目のスタートにあたり具体的な取り組み内容を伺いたい。

- ① 一期目の約束「緊急町政立て直し3年断行」「流の田舎町」構想が見えてこないが、今後どのような対応を考えているのか。
- ② 行政機構のスリム化に逆行する政策企画室の設置内容は、児童館の建設に想定される内容は。
- ③ 土樽地区将来構想の構築と実現とは具体的にどのようなことを考えているのか。

#### 町長答弁

「流の田舎町」がどういうことかは、今後策定される総合計

画の中で示して行きたい。

「政策企画室」は重要事項の研究や私の指示で組織を横断しての調査、町民サービスや関連組織との連携を円滑にする組織としたい。当面は文教施設整備の事務局を担当し、管理職である室長以下3名程度の体制を考えている。

「児童館の建設」は公約に掲げた事項でもあるので、童画のまちづくり委員会の答申内容を受け町としての計画を立てたい。

「土樽地区将来構想の構築と実現」は土樽自然公園の自然を観光客に知ってもらうために誘導看板や安全対策をはかり、土樽地域を観光と農業の連携による地消地産を担う地域としたい。

#### 質問

町民懇談会で「流の田舎町」のモデルは福島の新三町と聞いていたが、これは三春町の元職員が書いた本のタイトルである。こ

の構想を具体化するためのグラ

ンドデザインは何も無いのではないかと。「政策企画室」が文教施設整備を担当することは、地方教育行政組織及び運営に関する法律の第23条で教育委員会の職務権限、第24条で教育分野の町長の職務権限が規定されていること、地方自治法が教育委員会に教育の分野の権限を委ねていることから、町長の権限を逸脱し、法律に抵触することとなるのではないかと。

「児童館の建設」について、童画のまちづくり委員会では拠点施設を民俗資料館とする方向で検討が進められている。町長の町政運営の方向性に多くの矛盾点が見受けられるが、見解を伺いたい。

#### 町長答弁

「流の田舎町」について町民懇談会でモデルはといわれたので、この本のもとになっているのが三春町であったと言った。自分なりの判断でいろいろやって行く。

「政策企画室」の法律違反の問題、「児童館の建設」の方向性の問題等は、自分なりの話をし、課長会議等に諮って出している、大きな間違いがあるとは思っていない。

### 湯沢駅のステーションルネッサンス(駅中開発)の地域経済への影響について

#### 質問

湯沢駅活性化の新たな展開は、地下駐車場も4時間までは無料となり、駅利用者だけではなく湯沢を訪れた観光客の拠点としての展開が始まり、競合する地域のみやげ物店、飲食店の今後を心配する声が出ている。

観光の町湯沢の新しい観光施設として期待できる反面、駅への極集中により、今まで観光の町湯沢を支えてきた地域の商店が生き残れなくなることも懸念され、「駅が栄えて、地域が減る」という現象は避けなければならぬ。地域の真の活性化は、観光客が駅から外へ足を伸ばし、湯沢の空気を吸ってもらうことからスタートし、ここからJRと地域の共存共栄への道が開ける。スキー客を中心とする観光客の急激な減少で、地域の経済体質が弱体化し、地域への努力には限界がある。このことについてどのような見解をもた

れているか伺いたい。

#### 町長答弁

JR本社事業創造本部の地域活性化グループが何度も湯沢に足を運び地元の人たちの意見を聞き、湯沢エリアの地域経済、観光振興、お客様の利便性向上のためにこのプロジェクトを推進してくれている。これを活用して地元商店街との経済的相乗効果を計っていくことが地元の人々の役割である。「魅力ある商店街、立ち寄ってみたいくなる店舗、買いたくなる商品作り」を地域関係者と力を合わせ、知恵を出し合いたい。

#### 質問

厳しい経済状況が続き、地元事業者は体力も弱まり、地域力がなくなってきた。町が主導権を発揮して先頭に立ち、旗振り役にならなければならぬと思うが町長の考える施策と今後の展開を伺いたい。

#### 町長答弁

観光客が駅から出てもらうために湯沢温泉通りの電線地下埋設、東口のバリアフリー化を進めている。